

2023年度

日本健康医療専門学校

シラバス (講義概要)

柔道整復学科

1年生

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	国語表現(人文科学1)	
赤塚 史	専門学校国語関連科目講師		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>専門科目の学習を始めるにあたり、いま一度「読むこと・書くこと」を中心とした国語基礎力を総点検する。また、社会人として適切な言葉の運用ができるよう、必要な知識を身に着ける。自身の知識や思考を誤解なく相手に伝えるためには、どのような言葉で、どのような手順で伝えるのがよいのか、実践的に学ぶ。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>「わかりやすい文章」がどのように作られるのかを理解し、自分でも作成できるようになる。様々な文章に触れ、読んで理解し、知識を蓄える。</p>			
2 授業内容			
1回	授業ガイダンスと自己紹介文の作成		
2回	文の書き方①(一文一義、主語述語の位置など)		
3回	文の書き方②(話し言葉と書き言葉、読点など)		
4回	文章構成の仕方		
5回	「じゃんけん」説明文を書く		
6回	意見文の書き方		
7回	物語を〈読む〉		
8回	一般教養を身につける①(慣用句、難読地名など)		
9回	一般教養を身につける②(日本の習慣など)		
10回	一般教養を身に着ける③(間違いやすい漢字など)		
11回	エッセイを〈読む〉		
12回	敬語をマスターする①		
13回	敬語をマスターする②		
14回	日本の古典に触れる		
15回	意見文に〈反論する〉		
3 履修上の注意			
専門科目と直接的には関係しない授業だが、資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習や事前準備が必要な場合は、その都度指示をする。			
5 教科書			
教員が資料(プリント等)を準備し、授業時に配布する。			
6 参考書			
適宜紹介する。			
7 成績評価の方法			
平常点(出席状況、課題提出等を総合的に鑑み評価) 試験(レポート形式)			
8 その他			
授業スケジュールは、学生の学習到達度を考慮し調整することがある。			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	コミュニケーション(人文科学2)	
赤塚 史	専門学校国語関連科目講師		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 医療従事者として責任をもって患者と向き合い、同僚と良好な関係を築くために必要なコミュニケーションを学ぶ。例えば、〈医療従事者と患者〉間の情報伝達と、〈医療従事者同士〉での情報伝達とは、相手に合わせて伝え方を変える必要があるだろう。また、相手の世代や言語環境への留意も必要となろう。社会人として、また専門職の担い手として、相手にわかりやすい説明をし、相手が正しく理解できる文章を作成し、相手の話をきちんと聞くことができるよう、言葉の運用方法を見直す。			
〈到達目標〉 医療従事者として正しく十分な説明ができるよう、自身の言葉の使い方を見直し、修正できるようになる。インフォームド・コンセントへの認識を深める。			
2 授業内容			
1回	社会人としての「コミュニケーション」		
2回	相手に伝わる表現を探す①		
3回	相手に伝わる表現を探す②		
4回	伝え方のバリエーションを増やす①		
5回	伝え方のバリエーションを増やす②		
6回	対象に合わせた掲示物を考える		
7回	場面に応じた表現を使う①		
8回	場面に応じた表現を使う②		
9回	聞き書きの練習をする①		
10回	聞き書きの練習をする②		
11回	オノマトペを適切に使う		
12回	電話のかけ方、メールの書き方をマスターする		
13回	相手に伝わる「説明」を考える		
14回	相手に伝わる「紹介文」を考える		
15回	相手に伝わる「自己PR」を考える		
3 履修上の注意			
専門科目と直接的には関係しない授業だが、資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習や事前準備が必要な場合は、その都度指示をする。			
5 教科書			
教員が資料（プリント等）を準備し、授業時に配布する。			
6 参考書			
適宜紹介する。			
7 成績評価の方法			
平常点(出席状況, 課題提出等を総合的に鑑み評価) 試験(レポート形式)			
8 その他			
授業スケジュールは、学生の学習到達度を考慮し調整することがある。			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	社会科学1 (法学入門)	
福井 丈郎	専門学校法律関連科目講師 中小企業診断士 行政書士 F P		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 社会人として適正に法律を遵守することは不可欠である。またトラブルに巻き込まれないよう、法的知識を身につけておくことは職業人として必須項目である。講義の前段は①法とは何か、②法律の体系、③法秩序の原則、④法令の解釈の仕方を理解する。日本国憲法の正しい理解と、民法、労働法の基礎を学習することが主たる講義内容である。			
〈到達目標〉 法的素養、中でも正しい法解釈を習得することを第一目標とするが、叶うならば法的思考力の獲得を最終的な目標としたい。			
2 授業内容			
第1回	ガイダンス 日本国憲法概説① 立憲主義について		
第2回	日本国憲法概説② 自由主義と統治機構		
第3回	民法① 契約とは 債務不履行について 不法行為		
第4回	民法② 医療過誤について インフォームドコンセント 患者の知る権利 自己決定権		
第5回	あはき法概説① 日本国憲法25条 (生存権) に立脚するはりきゅう師のあるべき姿		
第6回	あはき法概説② はりきゅう師の業務とは		
第7回	治療院経営法務①		
第8回	治療院経営法務②		
第9回	学習習熟度確認テスト (中間試験)		
第10回	労働基準法概説① 労働契約の締結 労働契約の内容 労使協定 労働契約の終了 解雇		
第11回	労働基準法概説② 賃金 賃金の支払		
第12回	労働基準法概説③ 労働時間 休憩 休日 時間外労働・休日労働 割増賃金		
第13回	治療院経営法務③		
第14回	治療院経営法務④		
第15回	最終評価		
3 履修上の注意			
出席状況を成績評価の中心にする。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。			
5 教科書			
指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。			
6 参考書			
特になし。			
7 成績評価の方法			
最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。			
8 その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	社会科学2（社会保険制度）	
福井丈郎	専門学校法律関連科目講師 中小企業診断士 行政書士 F P		
必修	2単位（30時間）	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>日本国憲法第25条に規定する理念に基づき制定されている様々な社会保障制度の内、特に疾病、老齢、失業、労働災害などの事由に基づき給付される社会保険制度について取り上げ講義を行う。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>日本の社会保険制度を理解し患者等に適切な指導助言ができる知識を得ること。</p>			
2. 授業内容			
<p>第1回 ガイダンス 社会保険制度の全体像</p> <p>第2回 公的医療保険の全体像 健康保険と国民健康保険の仕組み</p> <p>第3回 年金保険① 国民年金と厚生年金の仕組み</p> <p>第4回 年金保険② 老齢給付 障害給付 遺族給付</p> <p>第5回 介護保険 介護保険の仕組み</p> <p>第6回 雇用保険① 雇用保険の仕組み</p> <p>第7回 雇用保険② 失業給付 就職促進給付 教育訓練給付</p> <p>第8回 労災保険① 労災保険の仕組み</p> <p>第9回 労災保険② 療養補償給付 休業補償給付 傷病補償給付 障害補償給付</p> <p>第10回 民間保険① 民間保険の仕組み</p> <p>第11回 民間保険② 定期保険 養老保険 終身保険 医療保険</p> <p>第12回 損害保険の仕組み</p> <p>第13回 個人年金保険</p> <p>第14回 社会保険と税金</p> <p>第15回 最終評価</p>			
3. 履修上の注意			
出席状況を成績評価の中心にする。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
特に予習の必要はない。時事問題や政治経済に対して常に関心を持つこと。			
5. 教科書			
指定する教科書はない。オリジナル教材を毎回作成配布する。			
6. 参考書			
特になし			
7. 成績評価の方法			
最終評価試験を持って成績評価をするも、出席状態を特に重視する。			
8. その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	自然科学 1 (人体の構造)	
丹尾美絵	接骨院の実務経験		
佐々木慎司	接骨院の実務経験		
必修	2単位(30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。2つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにくくなるかもしれません。でも、安心して下さい、学ぶ内容は、医学の入り口に過ぎないので、楽しく学びましょう。</p> <p>分からない点は、直ぐに調べ、無理であったら、直ぐに質問するようにして下さい。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。</p>			
2. 授業内容			
<p>第1回 細胞の構造と機能 (タンパク合成)</p> <p>第2回 細胞の構造と機能 (細胞分裂)</p> <p>第3回 生命の維持機能 1 (呼吸・循環の構造と機能)</p> <p>第4回 生命の維持機能 2 (呼吸・循環の構造と機能)</p> <p>第5回 生命の維持機能 3 (調節)</p> <p>第6回 身体運動の構造と機能</p> <p>第7回 身体運動の調節</p> <p>第8回 まとめ (基礎編 1) : 身体活動</p> <p>第9回 消化吸収と循環器</p> <p>第10回 消化吸収と調節</p> <p>第11回 ホルモンの働き</p> <p>第12回 ホルモンと運動期</p> <p>第13回 成長と老化</p> <p>第14回 発育発達</p> <p>第15回 まとめ (基礎編 2) : 身体構造の構築</p>			
3. 履修上の注意			
解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。			
4. 準備学習 (予習・復習) の内容			
解剖学、生理学の予習と復習			
5. 教科書			
解剖学、生理学の教科書			
6. 参考書			
特になし			
7. 成績評価の方法			
出席、課題、定期試験、小試験結果による総合評価			
8. その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	自然科学2（現代社会と健康）	
丹尾美絵	接骨院の実務経験		
佐々木慎司	接骨院の実務経験		
必修	2単位(30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。2つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにくくなるかもしれません。でも、安心して下さい、学ぶ内容は、医学の入り口に過ぎないので、楽しく学びましょう。</p> <p>分からない点は、直ぐに調べ、無理であったら、直ぐに質問するようにして下さい。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。</p>			
2. 授業内容			
<p>第1回 内呼吸と外呼吸</p> <p>第2回 血液と血液ガス</p> <p>第3回 細胞における代謝</p> <p>第4回 心臓の構造と機能</p> <p>第5回 ガス交換の構造と機能</p> <p>第6回 血圧調節の仕組み</p> <p>第7回 まとめ（発展編）：呼吸・循環の構造と機能</p> <p>第8回 循環・呼吸器系と泌尿器系</p> <p>第9回 循環・呼吸器系と消化器系</p> <p>第10回 感覚の入力と認識1（一般）</p> <p>第11回 感覚の入力と認識2（特殊）</p> <p>第12回 TBL課題1</p> <p>第13回 TBL課題2</p> <p>第14回 TBL課題3</p> <p>第15回 まとめ：総合討論</p>			
3. 履修上の注意			
解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。			
4. 準備学習（予習・復習）の内容			
解剖学、生理学の予習と復習			
5. 教科書			
解剖学、生理学の教科書			
6. 参考書			
特になし			
7. 成績評価の方法			
出席、課題、定期試験、小試験結果による総合評価			
8. その他			

分野	科学的思考の基礎 人間と生活	保健体育	
滝澤 航	私立中高一貫校にて保健体育の授業担当		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 心と体を一体としてとらえ、スポーツの専門的な理解と、高度な技術の修得だけではなく、その実践から生まれる豊かな心の発達を体験的に学習する。			
〈到達目標〉 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、豊かで明るい活力のある生活を営む態度を育てることが本講義の目標である。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション 授業の進め方と諸注意		
2回	体力トレーニング 基礎理論と筋力トレーニングについて		
3回	体力トレーニング 持久力トレーニングと調整力・柔軟性のトレーニングについて		
4回	応急手当の意義とその基本 適切な応急手当の意義・基礎的な事項を理解する		
5回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
6回	生涯スポーツの見方・考え方 各ライフステージに応じたスポーツの特徴について学ぶ		
7回	ライフステージに応じたスポーツ 自分に合ったスポーツライフステージを見つけよう		
8回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
9回	心身の相関とストレス 心身相関のしくみ、ストレスの影響について学ぶ		
10回	心と健康状況 ストレスへのさまざまな対処方法について学ぶ		
11回	体づくり運動 各種の体ほぐし運動、体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
12回	スポーツ文化と国際理解 スポーツを通しての文化や国際交流の意味を考え理解する		
13回	脳と運動の関係 身体を動かして脳を活性化する		
14回	スポーツと環境 スポーツ活動にともなう環境問題や環境保護について学ぶ		
15回	定期試験		
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業で使用したプリントの復習			
5 教科書			
特になし			
6 参考書			
講師作成プリント			
7 成績評価の方法			
定期試験・授業出席状況で評価を行う			
8 その他			
日本体育大学 体育学部卒 中学校教諭一種免許状（保健体育）高等学校教諭一種免許状（保健体育）			

専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学 1 (解剖学)	
工藤宏幸	医学部解剖学講座教員として、人体解剖学講義、解剖実習を担当		
必修	4単位(80時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>形態機能学は人体を理解するための基本的な学問であり、形態（構造）を対象とする解剖学と、機能を対象とする生理学を統合したものである。本講義では、細胞と組織を概観し、内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）、感覚器系（視覚器、聴覚器）の主要器官について、解剖学的な側面から解説する。各器官の構造的な特徴とその構造を表現するための解剖学用語を説明するとともに、関係する生理機能や臨床応用の知識についても必要に応じて概説し、構造の全体的な理解を追求する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>細胞と組織の基本的な構成を説明できる。内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）、感覚器系（視覚器、聴覚器）の主要器官について、各器官の名称、位置、構造の特徴、生理機能の概略を説明できる。</p>			
2 授業内容			
1回	解剖学総論 1. 解剖学用語、細胞	21回	内分泌器 2. 甲状腺、副腎、膵島
2回	解剖学総論 2. 組織	22回	神経系総論 1. 神経組織
3回	消化器系 1. 消化器総論、口腔	23回	神経系総論 2. 神経系発生
4回	消化器系 2. 咽頭、食道	24回	中枢神経系 1. 区分、脳室系、髄膜
5回	消化器系 3. 胃	25回	中枢神経系 2. 大脳半球、間脳
6回	消化器系 4. 小腸、大腸	26回	中枢神経系 3. 脳幹
7回	消化器系 5. 肝臓、膵臓	27回	中枢神経系 4. 小脳
8回	消化器系 6. 腹膜	28回	中枢神経系 5. 脊髄
9回	定期試験 1	29回	定期試験 3
10回	呼吸器系 1. 鼻腔、喉頭	30回	中枢神経系 6. 上行性伝導路
11回	呼吸器系 2. 気管、気管支	31回	中枢神経系 7. 下行性伝導路
12回	呼吸器系 3. 肺、胸膜	32回	末梢神経系 1. 末梢神経系総論
13回	泌尿器系 1. 腎臓	33回	末梢神経系 2. 脳神経 (I~VI)
14回	泌尿器系 2. 尿管、膀胱、尿道	34回	末梢神経系 3. 脳神経 (VII~XII)
15回	男性生殖器系 1. 精巣、精管	35回	末梢神経系 4. 脊髄神経総論、頸神経叢
16回	男性生殖器系 2. 精液分泌腺、外部生殖器	36回	末梢神経系 5. 腕神経叢
17回	女性生殖器系 1. 卵巣	37回	末梢神経系 6. 腰神経叢、仙骨神経叢
18回	女性生殖器系 2. 卵管、子宮、膣	38回	末梢神経系 7. 自律神経系総論
19回	定期試験 2	39回	定期試験 4
20回	内分泌器 1. 下垂体、松果体	40回	末梢神経系 8. 自律神経系各論
3 履修上の注意			
解剖学においては、形態的特徴の理解と解剖学用語の習得が必須であるが、単に解剖学用語を暗記するだけでは有用な知識とならない。学習を反復し用語を自発的に使用することで、解剖学の知識を習熟することが必要である。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習：教科書の講義予定範囲を一読しておくこと。			
復習：講義ノートおよび配布プリントを整理し、繰り返し学習するための資料を作成すること。			
5 教科書			
「解剖学 改訂第 2 版」 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版社			
6 参考書			
「カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版第 4 版」坂井建雄・河原克雅総編集 日本医事新報社			
7 成績評価の方法			
定期試験得点、授業内小テスト得点、レポート評価点により評価する。			
8 その他			

分野	人体の構造と機能	形態機能学2 (生理学1)	
山門一平	東海大学医学部基礎医学系医学教育学 助教 解剖生理学ほか担当		
単位数	4単位(60時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>医療従事者として身体の構造と機能を理解することは必須であり、解剖と生理学で構成される形態機能学は重要な教科です。構造あつての機能。機能のための構造として、カタチを知り機能を理解するために、多くの単語を使います。学習のポイントは、単語のネットワークとイメージです。基礎医学である形態機能学を"理解"し、臨床に結びつく基礎を学修します (GIO)。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>形態機能学に欠かせない用語を正しく分類し、列挙することができる。また、各構造と機能に対し、理解した上で説明することができる (SBOs)</p>			
2. 授業内容			
第1回	生理学とは1/2 細胞、組織	第21回	内分泌 下垂体系ホルモン
第2回	生理学とは1/2 恒常性、体液	第22回	内分泌 非下垂体系ホルモン
第3回	筋の生理1/3 骨格筋構造と筋収縮メカニズム	第23回	内分泌 ホルモンとホメオスタシス
第4回	筋の生理2/3 骨格筋の収縮生理、筋電図	第24回	生殖 性分化、男性生殖器と女性生殖器
第5回	筋の生理3/3 心筋、平滑筋	第25回	生殖 妊娠と分娩
第6回	神経の生理1/5 ニューロンと興奮、伝導	第26回	血液 血液の成分と組成
第7回	神経の生理2/5 神経系	第27回	血液 止血と線溶
第8回	神経の生理3/5 脳の高次機能	第28回	血液 血液型と免疫
第9回	定期試験	第29回	定期試験
第10回	神経の生理4/5 睡眠、学習、内臓の調節	第30回	生理学まとめ
第11回	神経の生理5/5 反射		
第12回	運動の生理1/3 下行性伝導路		
第13回	運動の生理2/3 運動ニューロン		
第14回	運動の生理3/3 筋の調節 α - γ 連関 運動調節		
第15回	感覚の生理 感覚 (一般感覚)		
第16回	感覚の生理 感覚 (特殊感覚)		
第17回	感覚の生理 体性感覚と内臓感覚		
第18回	感覚の生理 痛覚		
第19回	定期試験		
第20回	内分泌 内分泌線とホルモン		
3. 履修上の注意			
<p>多くの単語をまず覚え、それぞれの単語を結びつけるために努力すること。十分な予習、反復学習が必要となります。生理学を理解し、医療従事者として必要最低限の知識は全員が習得する様にしましょう。</p>			
4. 準備学習 (予習・復習) の内容			
LMSを活用します。LMS内の問題や課題に関しては、必ず取り組む様にして下さい。また、講義後には確認テストを当日中に終える様にしましょう。			
5. 教科書			
指定教科書			
6. 参考書			
講義資料			
7. 成績評価の方法			
定期試験、出席、発言ポイント、課題、LMS利用等による総合評価			
8. その他			

専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	保健医療福祉1（公衆衛生学）	
新井啓之	歯科医師・歯学博士として臨床・教育に従事		
宮山貴光	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学助教		
必修	4単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 公衆衛生学とは、「皆の健康」を守る学問である。具体的には、疾病を予防し、寿命を延伸し、身体的及び精神的健康の増進をはかる科学・技術を扱う学問分野である。疫学的調査や保健統計などから、ヒトの健康や疾病に関する様々な要因を探り、身体的・精神的及び社会的に健康な生活を送るための課題、健康増進や疾病予防へのアプローチ方法などの知識を習得する。			
〈到達目標〉 衛生学、公衆衛生学の理念・概説が理解できる。			
2 授業内容			
1回	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	16回	産業保健①
2回	健康の概念	17回	産業保健②
3回	疾病予防と健康管理	18回	成人保健・高齢者保健①
4回	感染症の予防① 感染症とは	19回	試験②
5回	感染症の予防② 感染症の予防対策	20回	試験解説
6回	消毒① 消毒とは	21回	成人保健・高齢者保健②
7回	消毒② 消毒の種類と方法	22回	精神保健
8回	環境衛生① 環境とは	23回	地域保健と国際保健
9回	試験①	24回	衛生行政と保健医療制度
10回	試験解説	25回	衛生行政と保健医療制度②
11回	環境衛生② 公害、環境問題、リスク評価	26回	医療倫理と安全確保①
12回	生活環境	27回	医療倫理と安全確保②
13回	食品衛生活動	28回	疫学
14回	母子保健	29回	試験③
15回	学校保健	30回	試験解説
3 履修上の注意			
ノート、教科書を必ず持参すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の復習をしておくことが望ましい。			
5 教科書			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
8 その他			

専門基礎分野	柔道整復の理念	柔道実技（柔道1）	
竹村 春樹	接骨院勤務の実務経験。講道館柔道三段。		
必修	2単位(80時間)	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>1882年に嘉納治五郎師範によって創始された柔道は、現在200か国に普及発展を遂げている。柔道整復師における柔道実技は、理合いを体得することで整復実技等の応用力に繋がるものである。本講義では、柔道の基本技術となる礼法と受身を中心に学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>柔道の基本技術となる礼法と受身を中心に学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。</p>			
2 授業内容			
1回	ガイダンス	21回	前期授業の復習①
2回	柔道の歴史について	22回	前期授業の復習②
3回	礼法	23回	体落①
4回	後方受身	24回	体落②
5回	側方受身	25回	体落③
6回	前方回転受身①	26回	大内刈①
7回	前方回転受身②	27回	大内刈②
8回	前方回転受身③	28回	釣込腰①
9回	前方回転受身④	29回	釣込腰②
10回	前方回転受身⑤	30回	釣込腰③
11回	確認テスト	31回	確認テスト
12回	技の理合いについて①	32回	柔道の試合とルールについて
13回	技の理合いについて②	33回	固技の習得①
14回	大腰①	34回	固技の習得②
15回	大腰②	35回	寝技基本練習
16回	背負投①	36回	寝技乱取①
17回	背負投②	37回	寝技乱取②
18回	背負投③	38回	立技乱取の基礎
19回	確認テスト	39回	確認テスト
20回	まとめ	40回	最終評価
3 履修上の注意			
ケガ防止のため担当者の指示に必ず従うこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内で実施した内容を次の授業までに復習しておくこと。			
5 教科書			
柔道実技虎の巻 森脇 保彦 著 メディアパル社			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
<p>本試験60%以上取得が合格となる。</p> <p>ただし、出席状況および授業態度等も評価に入れることもある。</p>			
8 その他			

専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復理論（総論） 1	
佐藤洋平	接骨院、スポーツジムのメディカルトレーナーの実務経験		
必修	4単位（80時間）	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>骨の性状や役割、骨折が発生する因子、分類、治癒過程等を理解させ骨折総論の基礎を履修させる。 小テストを実施し履修度合いを確認。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>概要で述べた内容が概ね口述でき、選択問題の正答率が8割を超えるようにする。</p>			
2. 授業内容			
第1回	身体の基礎的状态、損傷時に加わる力	第21回	授業ガイダンス
第2回	骨の構造、骨損傷の分類	第22回	上肢帯の機能解剖
第3回	骨折の定義・損傷の程度による分類（完全骨折・不全骨折）	第23回	鎖骨骨折①
第4回	骨折線の方向による分類、骨折数による分類、創部との交通の有無による分類	第24回	鎖骨骨折②
第5回	外力の働き方による分類	第25回	肩鎖関節脱臼①
第6回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）①	第26回	肩鎖関節脱臼②
第7回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）②	第27回	胸鎖関節脱臼①
第8回	骨折の全身症状	第28回	肩甲骨骨折
第9回	前期確認試験	第29回	後期確認試験①
第10回	解説とフィードバック	第30回	解説とフィードバック
第11回	骨折の合併症①（併発症、続発症）	第31回	肩関節と上腕骨の機能解剖
第12回	骨折の合併症②（続発症、後遺症）	第32回	上腕骨近位端部骨折：概略、分類
第13回	小児の骨折①	第33回	上腕骨近位端部骨折：骨頭骨折、解剖頸骨折
第14回	小児の骨折②、高齢者の骨折①	第34回	上腕骨近位端部骨折：大、小結節単独骨折、近位骨端線離開
第15回	高齢者の骨折②、骨折の癒合日数	第35回	上腕骨外科頸骨折①
第16回	骨折の治癒経過	第36回	上腕骨外科頸骨折②
第17回	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子①	第37回	肩関節脱臼①
第18回	まとめ	第38回	肩関節脱臼②
第19回	前期確認試験	第39回	後期確認試験②
第20回	最終評価	第40回	最終評価
3. 履修上の注意			
教科書、ノートを持参。※時間は有限のため授業内での理解に努めるようしっかりと参加してください。			
4. 準備学習（予習・復習）の内容			
理解できなかった部分は質問をして解決させ後に残さないこと。			
5. 教科書			
柔道整復学(理論編)			
6. 参考書			
なし			
7. 成績評価の方法			
出席状況、授業態度、定期試験により総合評価。			
8. その他			

基礎分野	基礎柔道整復学	柔道整復理論（総論）2	
源田 周人	接骨院で勤務経験有り。		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>本講義の目的は全身を巡る循環器（心臓・血管）を解剖学的と生理学的に学ぶ。今後学んでいく柔道整復各論の際に合併症で起こりうる血管損傷の部位や拍動の確認ができるように血管の走行を学習する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>各疾患（骨折・脱臼）の損傷の際に起こりうる血管損傷を解剖学的視点から考察することができるための力を身につけていくことが目標である。</p>			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	21回	下肢の脱臼と血管損傷①
2回	循環器系復習①	22回	下肢の脱臼と血管損傷②
3回	循環器系復習②	23回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷①
4回	循環器系復習③	24回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷②
5回	血管損傷総論①	25回	下肢の血管損傷と判断
6回	血管損傷総論②	26回	上肢の脈拍触知部位と脈の取り方
7回	上肢の血管と走行①	27回	下肢の脈拍触知部位と脈の取り方
8回	上肢の血管と走行②	28回	その他の脈拍触知部位と脈の取り方
9回	上肢の骨折と血管損傷①	29回	総復習
10回	上肢の骨折と血管損傷②	30回	最終評価
11回	上肢の脱臼と血管損傷①		
12回	上肢の脱臼と血管損傷②		
13回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷①		
14回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷②		
15回	上肢の血管損傷と判断		
16回	確認試験		
17回	下肢の血管と走行①		
18回	下肢の血管と走行②		
19回	下肢の骨折と血管損傷①		
20回	下肢の骨折と血管損傷②		
3 履修上の注意			
・ 毎授業開始時に先週の範囲から小テストを実施する。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
・ 先週の授業範囲の内容を復習し小テストに臨むこと。			
5 教科書			
解剖学、柔道整復理論			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験全2回の平均点を評価とし、授業内の小テストを加点材料とする。 ただし、40点未満は平均点に関わらず必ず再試験を受験する。			
8 その他			

基礎分野	基礎柔道整復学(脱臼・軟損)	柔道整復理論（総論）4	
榎戸 亜希子	接骨院経営、自然医学		
必修	2単位（80時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>本講義では関節の構造と形態を解剖学や運動学の知識をもとに学んでいき、関節部の損傷として脱臼が発生するメカニズムや、脱臼の分類、脱臼の整復障害、靭帯損傷や筋・腱の軟部組織損傷を理解する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>各部位における関節損傷および軟部組織損傷を学んでいくための基礎的な知識、および国家試験に対応できる学力の獲得を到達目標とする。</p>			
2 授業内容			
第1回	関節の構造	第21回	筋損傷
第2回	関節の構成組織	第22回	筋の構造
第3回	関節の構成組織	第23回	筋損傷
第4回	関節損傷	第24回	筋損傷の分類
第5回	関節損傷	第25回	筋損傷の分類
第6回	関節軟骨損傷	第26回	筋損傷の治癒機序
第7回	関節軟骨損傷	第27回	筋損傷総論
第8回	その他関節構成組織損傷	第28回	筋損傷総論
第9回	第1回定期試験	第29回	第3回定期試験
第10回	試験解説	第30回	試験解説
第11回	脱臼の定義	第31回	腱の構造
第12回	脱臼の分類	第32回	腱の損傷
第13回	脱臼の分類	第33回	腱損傷の分類
第14回	脱臼の症状	第34回	腱損傷の症状
第15回	脱臼の合併症	第35回	末梢神経の構造
第16回	脱臼の予後	第36回	神経損傷の分類
第17回	脱臼総論	第37回	神経損傷の分類
第18回	脱臼総論	第38回	神経損傷の種類
第19回	第2回定期試験	第39回	第4回定期試験
第20回	試験解説	第40回	試験解説
3 履修上の注意			
授業中にノートはまとめなくてよい。ひたすら教員の説明に耳を傾け、教科書に書いていない内容をメモすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習の必要性はないので、講義のノート、小テストで覚えるまで反復する。			
5 教科書			
柔道整復学・理論編 改定第7版			
6 参考書			
なし			
7 成績評価の方法			
出席状況、授業態度、定期試験、小テストにより総合評価。			
8 その他			

分野	基礎分野	臨床柔道整復学【柔道整復理論（各論）2】	
佐々木 慎司	鍼灸整骨院にて実務経験有り。		
必修	2単位(40時間)	授業形態	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 臨床柔道整復学は、痛みと外傷のメカニズムを学ぶ教科である。基本的な皮膚の構造、視覚器、聴覚器、嗅覚器を解剖学と生理学から学び、柔道整復の外傷につなげて知識を得ていく。			
〈到達目標〉 痛みや平衡覚のメカニズムを理解することである。講義の進め方として、教科書の記載内容と臨床現場での実際を交えながら学習する。			
2 授業内容			
1回	表皮の感覚	21回	外耳の構造
2回	真皮の感覚	22回	中耳の構造
3回	皮下組織の感覚	23回	内耳の構造
4回	運動受容器	24回	骨迷路と膜迷路
5回	創傷の治癒メカニズム	25回	コルチ器の働き
6回	創傷の治癒メカニズム②	26回	卵形嚢と球形嚢の働き
7回	運動感覚の失調による外傷	27回	膨大部稜の働き
8回	運動感覚の失調による外傷②	28回	平衡感覚と外傷の関係
9回	汗腺、乳腺、脂腺	29回	平衡感覚と外傷の関係②
10回	中間試験	30回	中間試験
11回	線維膜の構造	31回	嗅上皮の構造
12回	血管膜の構造	32回	嗅覚の伝導路
13回	網膜の構造	33回	口腔の構造
14回	水晶体の動き	34回	舌の構造
15回	光の通過路	35回	味覚の伝導路
16回	視覚の伝導路	36回	味覚と嗅覚の危険察知能力
17回	動体視力	37回	運動失調による外傷まとめ
18回	視覚と外傷の関係	38回	視覚と外傷の関係まとめ
19回	視覚と外傷の関係②	39回	平衡感覚と外傷まとめ
20回	前期試験	40回	後期試験
3 履修上の注意			
臨床現場において非常に重要な科目となるので基本的に欠席は認めない。 1コマ（45分）の授業を40回行う。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
前回の授業でやった内容は必ず各自で復習しておく。			
5 教科書			
柔道整復理論、解剖学、生理学			
6 参考書			
なし			
7 成績評価の方法			
授業内で行う確認小テスト、中間試験、本試験において合計して60%以上取得が合格となる。 ただし、出席状況および授業態度等も評価に入れることもある。			
8 その他			

基礎分野	臨床柔道整復学	柔道整復理論 (各論) 6(柔整解剖①②)	
新才博紀	柔道整復師の臨床経験		
沼尻 昭	整形外科的疾患のリハビリの実務経験		
必修	4単位(120時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>柔道整復師として施術を行うためには部位別の運動器についての知識を身につけ、全身の骨や関節、靭帯の構造や、筋腱の走行を理解することが必須である。そのため、関節の解剖学的構造と関節の運動メカニズムも併用し学習していくことが必要となる。各疾患部に関わる解剖学および運動生理学(運動メカニズム)、さらには柔道整復理論を理解したうえで、各疾患(骨折・脱臼)を想定し整復動作と固定法を学び、それを行えるようにする。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>各疾患(骨折・脱臼)の損傷のメカニズムや症状および合併症を解剖学的視点から考察することが出来るための力を身につけていくことが目標である。</p>			
2 授業内容			
1回	解剖学用語①	31回	股関節
2回	解剖学用語②	32回	膝関節①
3回	骨格系総論(骨)①	33回	膝関節②
4回	骨格系総論(骨)②	34回	下腿の連結
5回	骨格系総論(骨)③	35回	足関節①
6回	鎖骨 肩甲骨	36回	足関節②
7回	上腕骨	37回	足指の連結
8回	橈骨	38回	筋系総論①
9回	尺骨	39回	筋系総論②
10回	確認試験	40回	筋系総論③
11回	手根骨	41回	筋系総論④
12回	指骨	42回	上肢帯筋①
13回	骨格系総論(関節)①	43回	上肢帯筋②
14回	骨格系総論(関節)②	44回	上肢帯筋③
15回	確認試験	45回	確認試験
16回	胸鎖関節 肩鎖関節	46回	上腕の筋①
17回	肩関節	47回	上腕の筋②
18回	肘関節 前腕の連結	48回	上腕の筋③
19回	手の連結	49回	上腕の筋④
20回	指の連結	50回	上腕の筋⑤
21回	骨盤①	51回	前腕の筋①
22回	骨盤②	52回	前腕の筋②
23回	骨盤③	53回	前腕の筋③
24回	大腿骨 膝蓋骨	54回	前腕の筋④
25回	脛骨	55回	前腕の筋⑤
26回	腓骨	56回	前腕の筋⑥
27回	足根骨	57回	手の筋①
28回	足指骨	58回	手の筋②
29回	骨盤～下肢骨まとめ	59回	手の筋③
30回	定期試験	60回	最終評価
3 履修上の注意			
<p>人体の構造を理解するための基礎となることから講義には毎回必ず出席をすること。</p> <p>講義中も受身ではなく自分自身でも考えながら聴講するように努めてもらいたい。</p> <p>万が一、学習に遅れが生じるようであれば担当教員などに確認するなどの行動を取り遅れを取り戻すよう心がけてほしい。</p>			
4 準備学習(予習・復習等)の内容			
前週の授業範囲の内容を復習し授業にのぞむこと。			
5 教科書			
解剖学・柔道整復理論			
6 参考書			
サブテキスト(柔整解剖運動器系・骨、柔整解剖運動器系・筋)			
7 成績評価の方法			
定期試験全4回の平均点を評価とし、授業内の小テストを加点材料とする。			
8 その他			

専門分野	柔道整復実技1	診察検査	
鈴木青也	柔道整復師の臨床経験		
必須	2単位（80時間）	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 柔道整復師の業務内容である、評価・整復・固定・後療法の理論について理解し、実技に応用し、技術を身に付けることを目的とする。特に評価に重きを置き、人体の構造の特に運動器や支持組織である骨や筋肉、関節周囲組織の解剖学的知識を基に触診や損傷時の症状、検査法を学ぶ。また、臨床現場に向けて必要な知識と技能、態度を学び、患者に対して的確な対応を行えるような学生を育てる。			
〈到達目標〉 ・評価の項目において、触診や症状、検査法習得をする。 ・臨床実習に参加するための知識、技能、態度を身に付ける。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	21回	鎖骨骨折①
2回	検査法について	22回	鎖骨骨折②
3回	足関節側副靭帯損傷①	23回	鎖骨骨折③
4回	足関節側副靭帯損傷①	24回	鎖骨骨折④
5回	足関節側副靭帯損傷①	25回	肩鎖関節脱臼①
6回	足関節側副靭帯損傷①	26回	肩鎖関節脱臼②
7回	膝関節側副靭帯損傷①	27回	肩鎖関節脱臼③
8回	膝関節側副靭帯損傷②	28回	肩鎖関節脱臼④
9回	膝関節側副靭帯損傷③	29回	肩鎖関節脱臼⑤
10回	膝関節側副靭帯損傷④	30回	上腕骨外科頸骨折①
11回	膝関節側副靭帯損傷⑤	31回	上腕骨外科頸骨折②
12回	膝関節半月板損傷①	32回	上腕骨外科頸骨折③
13回	膝関節半月板損傷②	33回	上腕骨外科頸骨折④
14回	膝関節半月板損傷③	34回	上腕骨外科頸骨折⑤
15回	膝関節半月板損傷④	35回	下肢軟部組織損傷 検査法①
16回	足関節・膝関節 検査法	36回	下肢軟部組織損傷 検査法②
17回	膝関節十字靭帯損傷①	37回	下肢軟部組織損傷 検査法③
18回	膝関節十字靭帯損傷②	38回	下肢軟部組織損傷 検査法④
19回	膝関節十字靭帯損傷③	39回	鎖骨・上腕骨 整復①
20回	膝関節十字靭帯損傷④	40回	鎖骨・上腕骨 整復②
3 履修上の注意			
・授業中は、講師の指示に従う。 ・出席状況と試験結果を成績評価の中心とする。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業・講義での理論の内容を予習、復習しておく。			
5 教科書			
・柔道整復学・理論編(改定第7版)、・柔道整復学・実技編(改定第2版)・包帯固定学（改訂版第2版）			
6 参考書			
・なし			
7 成績評価の方法			
基本的には定期試験の成績により評価する。ただし、担当教員により出席、授業態度なども評価対象として加味される。			
8 その他			
授業を進める上で配布する資料を必ず使用するので持参すること。			

基礎分野	柔道整復実技3	柔道整復実技3	
新才 博紀	柔道整復師の臨床経験		
亀田 奈保子	柔道整復師の臨床経験		
必修	3単位 (120時間)	講義・実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
<p>〈概要〉</p> <p>本講義では柔道整復師の業務内容である診察、整復、固定、後療法の理論を理解し、実技につなげることを目的とする。 実技では患者一人一人に合った治療法を選択し実施できるよう、視診や触診の技術と的確な判断力を身につけ整復につなげる。 固定では基本包帯である環行帯、螺旋帯、折転帯、蛇行帯、麦穂帯を学び、最終的にはこれらに応用した各疾患に対する固定法を身につける。また、テーピングでは種類と効果を理解し、主に足関節や膝関節に対しての固定法を身につける。</p> <p>〈到達目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復師の業務内容を理解し、医療従事者としての心構えを身につける。 ・整復法、固定法、後療法の基本を理解し、各論を学ぶ際に治療法を結びつけられるようにする。 ・基本包帯法を身につけ、各疾患に対する固定法を実施できるようにする。 ・テーピングの基本を身につけ、各疾患に対して応用できるようにする。 			
2 授業内容			
1回	テーピングの種類と機能	31回	包帯の扱い方、巻軸包帯について
2回	足関節のアンダーラップとアンカーテープ	32回	基本包帯法①
3回	バスケットウィーブ	33回	基本包帯法②
4回	フィギュアエイト	34回	基本包帯法③
5回	ヒールロック	35回	基本包帯法④
6回	足関節のテーピングまとめ	36回	肋骨骨折 固定①
7回	膝関節のアンダーラップとアンカーテープ	37回	肋骨骨折 固定②
8回	膝関節のサポートテープ	38回	肋骨骨折 固定③
9回	膝関節のサポートテープ	39回	肋骨骨折 固定④
10回	キネシオテーピング	40回	足関節外側側副靭帯損傷 固定①
11回	診察①	41回	足関節外側側副靭帯損傷 固定②
12回	診察②	42回	足関節外側側副靭帯損傷 固定③
13回	診察③	43回	足関節外側側副靭帯損傷 固定④
14回	治療法(骨折の整復法①)	44回	鎖骨骨折 診察整復①
15回	治療法(骨折の整復法②)	45回	鎖骨骨折 診察整復②
16回	治療法(脱臼の整復法①)	46回	鎖骨骨折 診察整復③
17回	治療法(脱臼の整復法②)	47回	鎖骨骨折 診察整復④
18回	治療法(軟部組織損傷の初期処置①)	48回	鎖骨骨折 固定①
19回	治療法(軟部組織損傷の初期処置②)	49回	鎖骨骨折 固定②
20回	治療法(固定法①)	50回	鎖骨骨折 固定③
21回	治療法(固定法②)	51回	鎖骨骨折 固定④
22回	治療法(固定法③)	52回	肩鎖関節脱臼 診察整復①
23回	治療法(手技療法①)	53回	肩鎖関節脱臼 診察整復②
24回	治療法(手技療法②)	54回	肩鎖関節脱臼 診察整復③
25回	治療法(運動療法①)	55回	肩鎖関節脱臼 診察整復④
26回	治療法(運動療法②)	56回	肩鎖関節脱臼 固定①
27回	治療法(物理療法①)	57回	肩鎖関節脱臼 固定②
28回	治療法(物理療法②)	58回	肩鎖関節脱臼 固定③
29回	指導管理	59回	肩鎖関節脱臼 固定④
30回	外傷予防	60回	最終評価
3 履修上の注意			
医療従事者を目指す者としてふさわしい身だしなみで受講する。			
4 準備学習 (予習・復習等) の内容			
授業で使用した資料と教科書を照らし合わせながら復習を行う。 講義で実施したものは次回の講義までに必ず出来るように復習をしておく。			
5 教科書			
柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、包帯固定学			
6 参考書			
なし			
7 成績評価の方法			
出席状況、授業態度、定期試験により総合評価。			
8 その他			